

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月25日

【評価実施概要】

事業所番号	3770103111
法人名	有限会社國村不動産
事業所名	グループホーム愛の里
所在地	香川県高松市上福岡町2005-11 (電話)087-837-2188

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年5月29日	評価決定日	平成21年6月25日

【情報提供票より】(21年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年5月24日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	20人 常勤 19人, 非常勤 1人, 常勤換算 16.3人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての2階～3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	18,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,200円	

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	5名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	58歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ふじさわ医院・まつした歯科・高松厚生クリニック・クワヤ病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

繁華街から少し離れた、周辺に田畑があり比較的静かな場所にある。事務所風な玄関を入るとドテカボチャがドーンと座りいらっしやいとばかり迎えてくれる。事業所は利用者の生活が安心して楽しく過ごせるように、職員一同が「笑顔」を心がけており、利用者の表情から穏やかな生活であることがうかがえる。また、地域との交流は、地域の行事に職員が参加したり、施設の行事を地域に知らせて相互に交流をしている。そのほか、施設の行事の他に毎月数回ボランティア訪問があり、利用者の生活リズムに変化を持たせ、楽しみながらの生活に工夫がなされている。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価に対する前向きな姿勢がうかがえる。中でも、地域との交流は行事表を商店に依頼して貼り出し、救命講習会には参加してもらっている。また、近くの公園の清掃は続けて行っている。改善課題は現在も、毎月のミーティングや全体会議で検討して取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を理解して、各セクションのミーティングで検討を重ね、改善に向けて取り組む課題が具体的にたくさん出されており、管理者のみならず、全職員の参加による取り組みとなっており熱意がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会長、市町の担当者・地域包括支援センター職員をはじめ地域の推進者や家族の参加のもと、生活状況報告・行事内容や活動報告に併せて、運営について検討や意見を聞き、改善やサービス向上に反映している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の居室の前に担当者の表示をし、家族や面会者との連携を取り易くしている。併せて面会時には言い出しやすい雰囲気作りと共に積極的に意見や希望を聞き、日々の支援に反映するように取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の立地条件や便利さを生かして、利用者の散歩コースにある公園の清掃をはじめ、元利用者の家族が経営している喫茶店を月1回開放してもらいコーヒタイムを設けている。職員は地域の行事に積極的に参加し、施設行事のポスターを近隣の商店に掲示して、施設の紹介と併せて参加を呼びかけている。恒例ではドテカボチャ作りを通して、近くの保育園と交流をしている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初から「笑顔」を理念に掲げ利用者をはじめ職員も共に笑顔で充実感の持てる継続支援をうたっている。	○	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく地域密着型サービスの役割を折り込んだ理念の再考に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の引継ぎ時や口腔体操の時間帯に利用者と共に理念を唱和し、確認している。また、職員に対しては、ミーティングや利用者とのかかわりで気付いたとき理念に必ず触れ確認しあっている。どちらのユニットの管理者とも、頼れる、頼もしい人格が伝わってきた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長の助言・協力を得て子ども会や保育所との交流をはじめ、商店に事業所の行事をポスターにして貼り周知している。元利用者の家族が経営する喫茶店を月1回開放してもらい利用者全員が楽しんでいる。散歩では地域の方に挨拶を交わし、近くの公園の清掃を行い地域の一員としての活動に努力をしている。	○	地域の一員としての取り組みを一つひとつ積み上げて工夫しているが、地域や福祉情報に詳しい民生委員の助言や協力を得られるような取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価はユニット毎にミーティングで何度も話し合っ自己評価を行い、改善に向けて具体策の検討も実施し実践につなげる努力をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護担当者や地域包括支援センター職員、地域の代表者、家族などの参加のもと、事業所からの行事実施内容や利用者の生活状況を報告するとともに、参加メンバーから質問や、要望、意見を受け、また検討して、会議を運営している。	○	地域や福祉情報に詳しい民生委員をメンバーに加え相談・助言を得て事業所の取り組み内容や具体的な改善に反映させてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議の機会を活かして相談や情報の収集、指導を受けている。また、地域の公園の利用や夏祭りのちょうちんの借用など市と相談連携しながら取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回担当者が月間報告書(家族の意見を取り入れて作成した様式)で、日常生活や体調、体重、血圧、受診状況や内容など家族の要望にマッチさせてお知らせしている。金銭の収支報告は家族の要望毎にコピーしてお知らせしている。詳細な報告は家族にも喜ばれファイルに閉じて保管しているという。	○	預かり金が少なくなって家族に請求する際、家族の要望がなくても、前回入金以降の用途明細書コピーを添付する配慮が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には担当職員が対応し、話しやすい雰囲気作りに努めている。そして、家族からの意見や要望などはミーティングにて検討し周知するとともに、修正改善し対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築くためにも、なじみの職員が対応することが重要と考えており、異動や離職がやむをえない場合も、引継ぎ等で最善の努力をしている。現職員中3年以上の継続勤務者は9名いる。	○	理念に沿って利用者の支援に取り組んでいるが、やむをえず離職者がある現状を、家族に機会を捉えて説明をして、利用者への影響が出ないように家族の協力を得る配慮を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用3カ月はOJTで適正指導を実施している。その後施設内外の研修は経験年数に応じて統括者から指示が出る研修に加え、希望者が随時研修に参加することが出来る。いずれの場合も研修報告は、ミーティングや全体会議において実施し、知識や技術の研鑽をしている。	○	適時職員研修は実施し、資質の向上を図っているが、研修記録を作成して、研修過程が把握できるシステムとすることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な同業者間の交流は計画されていないが、外部研修に参加して知り合った事業所の方を通じて訪問を計画中である。	○	管理者は必要性を十分理解し現在計画中である。同業者との交流は相互のサービスの質向上につながるため、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、短時間だが行事に参加することで本人や家族に安心感を持ってもらえるようにしている。勤務者は、勤務時間内に全ての利用者に対して、最低一言話しかけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に暮らす同士として、こだわり、苦しみ、悲しみ、不安、喜び、楽しみなど理解し、日々の生活の中で、利用者個々が満足感の得られる役割等を交えながら(洗濯・掃除などの一部分)共に支えあっている。また回想法や脳トレ訓練を希望者に取り入れている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人が何がしたいか、どのように暮らしたいのか、誰に会いたいのかなど入浴の介助・トイレ誘導・居室での会話など言い出しやすい機会を捉え思いを聞き出し、把握に努めている。飲酒希望者には、曜日と量を話し合っ決めて、飲んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の視点に立って、ケアマネジャー、担当者が中心になり、チームで介護計画を作成している。状況が可能なときは家族も加わり、意見やアイデアを反映しながら検討をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護経過を確認しながら、3カ月毎に計画を見直している。期間にとらわれず家族の要望や身体変化に応じて、その都度実践的な対応が出来るプランの変更をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況や要望に向き合い、可能な範囲内で事業所の機能を生かした柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望を取り入れ受診支援をしている。受診時には、一括整理している各自の受診ファイルを持参して適切な受診が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日ごろから看護職員を中心に健康管理をしているが、病状の変化に合わせて、本人や家族の希望に沿うように取り組んでいる。現段階では「みどりはしない」と家族には伝えており、家族・職員共に了解をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の保護の観点から秘密保持を徹底し、年間4回発行している事業所の新聞は利用者の日常生活がよりリアルに伝わるように写真を多く取り入れ家族にのみ配布している。地域への行事の呼びかけや紹介は別途作成して配布や掲示をし、配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	計画の作成段階から普段得た利用者の情報を生かして、選択が可能な複数コースを作り、本人が希望したものとなるように計画段階から工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者を交え、調理の一部(ジャガイモの皮むき、豆の筋取りなど)を利用者の出来る力を生かして作り、出来上がった料理は一緒に味わっている。訪問時も会話や笑顔があり和やかであった。片付けも、利用者の出来る力を出し合って(テーブルを拭いたり、お盆を拭いたりなど)支えながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現状では午後の時間で誘導している。入浴拒否する利用者や夜に入浴したいというときもあるが、気分転換を図りながら対応している。入浴時間は決められているが、湯の温度は個人の好みとしている。	○	利用者の希望やタイミングを計りながら入浴時間の検討をして清潔の確保のみではなく満足な入浴につながる配慮を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎月の行事計画には張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、ボランティアの訪問を受けたり、気晴らしのための時間作りをするほかに、利用者の持っている力を生かして居室・ホールの清掃・洗濯・身につけた踊りなど披露する機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の中だけでなく屋上に上がって景色を眺めたり、近隣の散歩や買い物をしている。散歩は、神社に立ち寄り参拝したり、公園のごみ集め等している。計画して桜や菖蒲、紅葉狩りに車で出かける支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けることの弊害は十分理解して対応しており、利用者の安全確保との両立に工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年間2回夜間を想定した避難訓練を実施している。利用者の生活が2・3階のため階段を降りる訓練も取り入れたり、職員をモデルにして1人でできる搬送方法の訓練もしている。	○	事業所のハード面から利用者の生活の場が2・3階となっており、災害時に敏速に利用者を避難誘導するのは難しいと想像できる。現在進行形であると同ったが、近隣の方々の協力は不可欠である。是非地域との話し合いを進め、一緒に訓練できるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立を元に、摂取した食事量を記載、水分はコップを目安に計り、服薬、排泄、口腔の管理など、利用者の持っている力を活かしながら必要量摂取できる支援をしている。生ものの食材は商店からその日の材料を配達してもらい、感染防止にも気を配り、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各階のホールには、大きなテーブルの周りに利用者が常時座れるイスがある。同じホールにリラックスできるソファやテーブルもある。また、利用者が転倒しないように見守りをしているが、骨折予防のために床材を圧縮素材にしている。全体に季節を取り入れた絵画や装飾で居心地良い空間を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の固定された備品の上に、利用者がこれまでの生活に使って馴染んだ物や写真、小物など家族とも相談して持ち込み、自宅の雰囲気を作り出し、落ち着いて過ごせる配慮がされている。		